

北海道札幌藻岩高等学校の取組

1. 研究のねらい

昨年度（第1学年）では「異文化への接し方～価値観の違い」をテーマに、本校出身の外交官や在札幌外国公館領事を講師にトークセッション型の授業を実施した。国際的な視野を広げ海外文化に目を向けることをねらいとし、「各国文化の理解」「札幌市との関わり」「各国の高校生との比較」をキーワードに、活発なトークセッションが展開された。

今年度（第2学年）では、「異文化理解を深める授業」として、国際的な視野と併せて、札幌市・北海道の文化や地域などを多角的に比較する視点を育成する「グローバルとローカルの視点を融合した国際理解教育」をテーマに授業展開を行った。

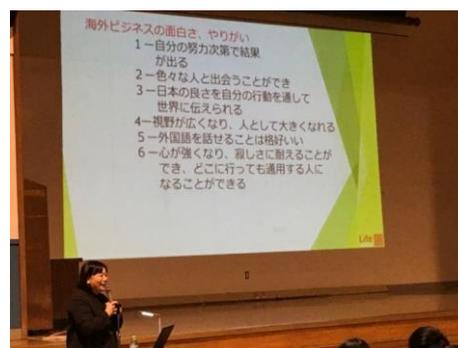
2. 取組内容

課 題：グローバルとローカルの双方向から文化的価値観をとらえる視点を育成するためには、どのような授業が有効なのだろうか。

(1) 札幌食と観光国際実行委員会特別講演

①実施概要

「海外から見た日本」～異文化の中に暮らして一やればできる」をテーマとし、日本・アメリカへの留学経験があり、日本と世界のビジネスをつなぐ架け橋として活躍する、会社経営の中国人女性の講演会を実施した。ビジネスをつなぐ視点から「日本と中国や海外諸国の人々の考え方やビジネスの違い」「海外ビジネスの面白さ」また講師の経験から「日本とアメリカの二カ国に留学した理由」「留学のきっかけ」「留学で困ったことと解決」「学生の時にやっておけばよかったこと」などを、高校2年生のお子さんをもつ講師の視点から、生徒へ語り掛ける雰囲気でお話いただいた。（平成28年12月2日実施）



②生徒アンケートの感想より

「留学で夢が広がること知った。もっと自分の世界を広げたいと思った」（留学への興味）、「グローバル化に進む世界情勢で外国との関係がある仕事を避けることができない」（グローバルビジネスへの関心）、「日本の誇りをもつことが大切。海外に日本のよさをアピールするために日本について知る必要があると思った」（日本のよさの認識）、「積極的にコミュニケーションをとる。自信のないことでも自分の意志を伝えることが大切だと思った」（コミュニケーションの熱意）、「「苦勞」「辛いこと」と思わずに自分が成長するための「process」だとする考えを自分も取り入れたい」「完璧じゃなくてもぶつかってみることが大切」（講師からの触発）。講師の言葉から生徒の素直な感想が表れている。

(2) 市内大学留学生とのトークセッション

①実施概要

留学生との交流から、「留学生出身国の文化、留学の動機、日本を選んだ理由などから異文化理解を深める」「日本での戸惑いや驚きなどを率直に話してもらいながら海外文化に目を向け、国際的な視野を広げ、将来の進路選択（大学進学後や留学など）を考察する」ことをねらいとした、札幌大・北海商科大・北海道大・札幌市立大の留学生とのトークセッションを実施した。（平成 28 年 12 月 9 日実施）



②生徒感想文より

「留学生の方々が魅力を感じた日本のことで私が知らないことが多かった。グローバル化社会で生きるためにも日本の伝統や文化をもっと知りたいと思った」（日本の魅力を知ること）、「海外の方とコミュニケーションで過度に緊張し閉鎖的になるのではなく、適度な柔軟性や積極性をもつということ」（コミュニケーションへの姿勢）、「（留学生との楽しそうな会話から）、新しい場所に飛び込むのは不安がたくさんあるだろうが、悪いことばかりではないということが分かった。留学ではなくても挑戦することの大切さを留学生たちから学んだ」（新しいことへの挑戦する姿勢）。留学生とのやり取りがモデルとなり、意欲を高めている生徒の素直な気持ちが表れている。

③参加留学生の感想より

「世界観、価値観が育てられているところで色々な文化と触れ合えれば、きっとこれからの人生にとって貴重な経験になる」「世界に様々な文化があることは、実際に聞いたり、感じたりして身につけること」と高校生に率直に語ってくれた。また、この交流を「お互い国や言葉の壁を越えてたくさん話せて、違いがあってもそれを認めて、みんなとの心の距離が少しでも縮めることができたなら、この交流に大変意味がある」と感じ「（交流後に取った集合写真から）何年後に写真を見て、「地元こんな外国人がいたんだな」と思い出してくれれば嬉しい」との感想が寄せられた。

3. 成果と課題

(1) 成果

生徒の感想からは、「留学への潜在的な興味・関心があること」「グローバルとローカルの視点が意識付けられていること」「自分の地域の文化の魅力を知ることの重要性」など、生徒の意識の変容が伺える。断片的な取り組みではあるが、異文化を融合的に捉えるきっかけになったと考えられ、課題達成度には一定の成果があったと考える。

(2) 課題

取り組みの充実と評価の構築が課題として挙げられる。「国際理解教育」「主権者教育」「キャリア教育」などの充実が求められている中で、それらを融合させながら充実させることを検討が必要である。また、取り組んだ実践では、表層的な体験となり、学びが浅いのではと考えられる。授業のねらいとその評価を構築することの検討が必要である。